



①



②



③



④



⑤

重要文化財（彫刻）

3. 木造男神像 5 軀

もくぞうだんしんぞう

く

■指定年月日 昭和 25 年 8 月 29 日（1950）

■像 高 (cm) ① 56.7 ② 56.0 ③ 54.5
④ 54.6 ⑤ 48.0

■所 在 地 三崎町寺家ツ56

■所 有 者 須須神社

5 体の像高は、⑤の神像が冠の巾子を欠失した分を考慮すれば、ほとんど変わらない。

いずれも一本の檜材で頭部と胴体を造り、別材で拱手する手の下辺から膝部をとりつけたものであるが、とりつけた別材の膝部分はいずれも欠失し、本体にその名残を示す柄穴が 2 個ずつ残っている。なお 5 体ともに彩色されたあとが残っているが、今はほとんどはげ落ちている。

神像は簡素な作りではあるが、容貌やひげの形、ひげの有無によって年齢を表したり、正面向き、あるいはわずかに左・右に向きを変えることによって動きを表現するなど、よく工夫された一連の作と思われるが、その製作の事情などについては一

切不明である。

衣冠束帯に威儀を正しながらも、生き生きとした感じを受けるのは、顔や姿に写実味が色濃くにじみでているからで、これは鎌倉期彫刻の特徴である。その法量・品質構造・形状からみて、また写実性のやや類型的なことから後期の作であろう。

昭和 44 年（1969）7 月、京都国立博物館内の財団法人美術院に依頼して修理を行い、翌年、拝殿の横に耐震耐火の収蔵庫を建立して納めた。